



心をこめて精一杯活動実施中

加古川市立

志方東小学校



令和5年度

学校便り 第24号

R5.10.3発行

3年生 校内国語科研究授業実施



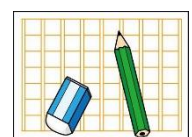
9月28日(木)2時間目に、3年1組担任が校内国語科研究授業を実施しました。本校は、令和4,5年度のテーマを「思考力・判断力・表現力の育成 ～学びの深化を図る指導と評価の在り方～」として、教科は国語科で「協同的探究学習」「学習コンテンツの有効活用」を2本の柱に、研究を推進しています。

教材は「すがたをかえる大豆」(説明文)で、めあては「3～7段落を読んで筆者の説明のしかたのくふうを見つけよう」と設定されました。前時までの学習を振り返った後、各自個

別に筆者の説明の工夫を見つけ、それを SKYMENU 発表ノートに入力して提出か、国語ノートに書いて Chromebook で撮影後、その画像を提出しました。協同探究として、全体で、SKYMENU のスライドショー機能を参照して考えを共有し、説明の工夫について「みんなが知っている順(大豆についての知識)」について話し合いました。その学習活動の過程で、調理、加工、発酵、収穫栽培の順に紹介されていることに気づかせる展開でした。最後に展開問題として、さつまいもの調理、加工製品のクイズから「すがたを変えるさつまいも」の説明順を各自考え、その理由を発表させましたが、時間が足りなかったため、次時に続きを行います。

15時半より、多目的室において、加古川市教育委員会指導主事に来校いただき事後研究会を開きました。まず、授業者より反省や提案があり、それについてグループ討議をしました。その後、指導主事より指導助言がありました。グループ討議では、授業者より提案があった「全文シートの使用は適切であったか」「展開問題について」「学習コンテンツなどの ICT 活用について」の3点について話し合いました。活発に意見交換し、課題も含め今後に生かせる内容となりました。指導主事には8月より指導案について指導していただいております。授業についても「教材がとても丁寧に作られており、子どもたちも関心をもって楽しく授業に取り組んでいた」「授業者自身がしっかりと本質をとらえ、それに迫っていた」「授業終了直後、ある児童が『続きが楽しみやなあ～』と言っていたのが、授業の評価ではなかったか」などの助言をいただきました。以下は、国語学習について、気になった新聞記事よりの引用です。

その一 国語はすべての勉強の土台 考えたことを書き残す



芥川賞受賞作家である津村記久子さんが、国語について語っている新聞記事を見つけましたので、紹介します。津村さんは、「国語は全ての勉強の土台。作文は実感が重要で、感じたまま

を書くといい」と話します。子どもたちにとって（教職員もですが）日常的に文章を書く機会が多いです。作文を書くコツを教えてください。

国語は全ての勉強の土台です。数学や理科の問題も文章が読めないと解けませんよね。あなた方に作文のコツを教えます。文章が書けると何がいいか。自分を知る手がかりになります。昨日の自分が分かり、今日の自分と比べて何を考えていたかが分かります。読むとなぐさめられたり、すっきりしたりします。メモでいいから、考えたことを書き残すのは大事。自分の頭で考えられるようになり、人に意見を聞いて回らなくてよくなります。SNSは偽りの自分を表現しがちだから、自分だけのメモや日記に書く方がいいです。

作文では、まず、印象に残ったことを項目ごとに簡単に書き出します。例えば、私は最近、サッカーの試合を見に静岡県へ行きました。その時、「雨が降った」とか「新幹線は人が多くてうるさかった」とか書く。いいことを見つけようとか思わず、見たままでいい。飾らなくていいから、感じたままを書くんです。自分をよく見せようと思うからしんどくなる。書き手がうそをつかず、本当に感じたままを書くと、面白くなります。書き出しは難しいけど、「ゼロ文目」を紙の端に書く。「今からサッカー観戦について書きます」とか。そこに「雨だった」とか情報を加える。繰り返していき、いくつかの要素を一文にします。後はメモを肉付けしていけば、形になります。少なくとも「何」をしたかが書いてあり、「いつ」があると親切です。さらに、「どこ」でとか「だれ」がなどの情報を加えていくと完成します。



その二 新聞読むほど好成绩(文部科学省結果分析による)

学校だより第23号で紹介したとおり、児童生徒の新聞を読む頻度と全国学力テスト各教科の平均正答率を文部科学省が分析しました。学校などで新聞を教材として活用するNIEという活動があります。1930年代にアメリカで始まり、日本では85年、静岡で開かれた新聞大会で提唱され、教育界と新聞界が協力し、社会性豊かな青少年の育成や活字文化と民主主義社会の発展などを目的に掲げて、全国で展開しています。8月3日(木)、4日(金)、「第28回NIE全国大会松山大会」が開催され、その初日に、俳人夏井いつきさんの記念講演とパネルディスカッションが行われました。その記念講演(要旨)を紹介します。

俳人夏井いつきさんが記念講演(要旨)

私がやっているのは、俳句の種をまくという活動。子どもたちに伝えたいのは「自分の命を守ることができる自分になって」ということ。体だけでなく、心を守ることが大切。交流サイト(SNS)の誹謗中傷などで、若者が自ら命を絶つ事件が繰り返されている。言葉は心を殺す武器になるが、守るためのプロテクターにもなり得ることを、ちゃんと教えるべきだ。言葉を使いこなす力と技術を子どもが身に付けるには、まずは学校教育からだと思う。俳句はそのトレーニングのための合理的なアイテム。俳句を使ってさまざまなことを学んでほしい。助詞や動詞、形容詞の細やかなニュアンスを表現し、使いこなす。季語と付き合うことで生々しい身体感覚を培う。必要なのは好奇心と想像力。好奇心は学ぶ力の一步になり、ずっと生き続ける。想像力は身体感覚を手に入れるために必要だ。元教員、俳人として、学校教育で俳句をうまく使ってほしい。